

平成19年度 第2回平田地域協議会 会議記録（抜粋）

○日 時 平成19年 7月20日（金）午後1時30分～4時30分

○場 所 ひらたタウンセンター 集会室

○出席委員 12名 1号委員 丸山賢治、齋藤孝雄、今井英夫、石川敏行、西田 克、
菅原律子

2号委員 佐藤富雄、富樫文雄、佐藤良二

3号委員 佐藤達也、富樫美雪、藤原幸雄

（※1号委員：公共的団体推薦、2号委員：識見委員、3号委員：公募委員）

○欠席委員 3名 1号委員 阿部時男、高橋絹子、小林隆逸、

○職 員 平田総合支所長：佐藤富雄、地域振興課長：齋藤啓一、市民福祉課長：久松勝郎、
建設課長：鈴木良寿、産業課長：尾形 力、教育振興主査：加藤栄一、地域振興
課課長補佐：石川忠春、地域振興主査兼地域振興係長：佐藤良広

○傍 聴 者 なし

< 協議会次第 >

○市民憲章の唱和

1. 開 会

2. 会長あいさつ

3. 平田総合支所長あいさつ

4. 会議録署名委員の選出

5. 報 告

（1）総合計画の策定状況について

（2）タウンセンター構想について

（3）全市広報と地域版広報の一本化について

（4）その他

6. 協 議

（1）コミュニティ振興組織について

・合同検討会(6/28)の内容について

・地域協議会としての検討スケジュールについて

（2）その他

7. その他

8. 閉 会

- 開会に先立ち、欠席連絡があった委員を報告。
- その後、全員で酒田市市民憲章を唱和し、開会する。

1. 開 会 … (進行を務める地域振興課長が開会する。)

2. 会長あいさつ

委員各位におかれては、それぞれの地域や団体で日々ボランティア活動等を推進いただき感謝申し上げます。今年度2回目の協議会の開催となったが、16日には中越沖地震、本日、宮城では登校中の子どもが刺されるという信じられない事件も発生した。今、参議院選挙の最中でもあるが、まさにこれからの地域のありようも問われてきている。

合併後、地域の声を市政に反映しようということで誕生した本協議会である。その意を委員各位から理解いただき、本日は4時30分までの予定なので休憩を取りながら、活発な協議をお願いしたい。

3. 平田総合支所長あいさつ

6月28日にはコミュニティ振興組織の合同検討会にも参加いただき感謝申し上げます。梅雨前線、台風4号、中越沖地震などで被害に遭われた方々にはお見舞いを申し上げます。幸い本地域では道路等の法面崩壊など小さな事案程度で安堵している。

さて、本日はコミュニティ振興組織について検討会に引き続き議論をいただきたい。支所としても最大の課題がコミュニティ振興組織の「くくり」をどうするかである。先の検討会でも、①分館(地区公民館)を廃止してコミ振となること、②原則小学校区であるが地域の自主性で、但し10のコミ振は不可、③結成時期は21年4月、などを示してきた。しかし、皆さんの判断材料となる市の支援制度、「公」の施設の管理のあり方など、市の方針が正式決定になっておらず、9月末を目途に鋭意検討を進めている段階であることをご理解いただきたい。

本日は、支所地域内全体を見渡して、将来に向かって知恵を出し合い、共に汗を流し、的確に情報を共有できるコミュニティのくくり等について活発な意見交換を願いたい。

なお、今年度の協議会は、年4回の開催を予定していたが6回程度お願いしたい。後ほど協議いただきたい。

4. 会議録署名委員の選出 … (3番 齋藤孝雄委員を選出)

5. 報 告

(1) 総合計画の策定状況について

(地域振興課長より策定作業状況について報告される。意見交換会(平田地域では6月6日に開催)や50人委員会を踏まえ、部課長会議で詰めている。7月下旬に審議会を開催し

意見をいただき8月に審議会からの答申後、9月議会に提案する予定こと。計画書の修正版はまとまり次第、委員に配付する旨説明。）

(2) タウンセンター構想について

(支所長より3支所及びその施設について、スリムな行政組織、公共施設の有効利用、支所地域の振興とサービスの充実、にぎわいの創出等の観点から内部検討されていることが報告される。現在、各総合支所における課題整理を進めている段階で、検討が進められていることについて委員の理解をいただきたいこと。あらためて委員に検討をいただく際には資料等に基づき説明する予定である旨が説明される。)

(3) 全市広報と地域版広報の一本化について

(地域振興課長より、合併の協議の中で支所広報として継続されている地域版広報について、次年度より全市版広報に一本化する方針にあることが報告される。なお、全市版広報に地域情報を掲載するなどの配慮、紙面のリニューアル等について検討途中である旨が説明される。)

(4) その他

(市民福祉課長より、現在、旧市町ごとに4つある衛生連合会が10月に向けて統合の方針にあり、8月に臨時総会を行い方針決定したい旨の状況が報告される。なお組織としては4支部組織となる予定。また、平田診療所の医師公募について、問い合わせはあったが申込みは現在0であることが報告される。)

<質疑>

○ 富樫会長

報告を一通り受けたが、委員から質問を受けたい。

○ 齋藤委員

タウンセンター構想の支所のあり方は、コミュニティ振興会にも大きく関わる。八幡、松山地域の支所施設の完成はいつ頃が想定されているのか。

○ 支所長

平成21年中の見通しにあるようだ。

○ 佐藤(良)委員

衛生連合会として8月に総会を行い市として一本化するが支部制度となるとのこと。負担金などの取扱いはどうなるのか。

○ 市民福祉課長

各組織ごと活動経費も異なっており単純に統一はできないものと認識している。独自

性を保った支部組織として行く必要がある。

○ 佐藤（富）委員

タウンセンター構想では、ひらたタウンセンターが支所となっていくとのことだが、建物的に支所としての機能を満たすことができるのか。その造りになっていないことは誰の目にも明らかであるが。

○ 支所長

事務のための書類保管、市民相談のスペースなどの課題もあり、構想について検討段階であり、ご意見は参考としたい。

○ 西田委員

支所機能は将来限りなく窓口業務に近くなると想定されるが、組織がそのまま移ることではなく、タウンセンターの規模に併せて支所機能を前倒して縮小するということにつながり不安である。窓口業務のみでは支所としての地域の業務をこなせなくなるだろう。

○ 支所長

合併の財政支援が10年間であり支所機能が徐々に縮小していくことにはなるが、このことで前倒しというようなものではない。

○ 藤原委員

タウンセンターに移るかどうかの検討中なのか、移転を前提にして検討しているのか。

○ 支所長

移転を前提にした検討である。

○ 佐藤（良）委員

合併し市として施設を有効活用する方針は解るが、平田のシンボルであった庁舎であり心情的には寂しい。支所は徐々に縮小するより、何年後に無くする、こうなると言われた方が住民も納得するのでないか。総合計画でも支所機能の検討が記載はされていたが、道筋は明確になっていない。毎年首を絞められていくような感じである。住民もそのことに意見を持っているだろう、本協議会でその課題を探ることも良い。

○ 富樫会長

住民にとっては不安を抱えていることであろう。支所長として、この場でできる範囲で答弁願いたい。

○ 支所長

合併協定の中で支所を置くことになり、協定通り履行されている。支所が縮小し将来廃止になるのではと不安を抱える住民もいるだろう。しかし、現在、支所廃止の議論はされていないし、しっかりと説明していきたい。

○ 齋藤委員

タウンセンターに現4課を移すことは不可能であり、支所機能をかなり縮小する方針

にあるのだろう。構想とは言え上層部の意向は大方固まっていると見る。その際、コミュニティ振興会がこれまでの支所の役割をある程度担う必要があり、大きな組織とするか、逆に7つ位に地域を分け地域づくりを進める方法も考えられる。

○ 支所長

意見として承る。今後の検討の参考にさせていただく。

○ 富樫会長

報告についての質疑はこの程度とし、次の協議に進み、コミュニティ振興組織について議論したいと思うがいかがか。(一堂異議無しの声)

6. 協議

(1) コミュニティ振興組織について

- ・合同検討会(6/28)の内容について
- ・地域協議会としての検討スケジュールについて

(地域振興課長より、6月28日の合同検討会での意見のまとめについて説明。質疑を分類すると6つの課題に整理され、特に市の支援制度が不透明なこと、現分館施設のあり方などについて不安を持っている状況にあることなどが紹介された。協議会スケジュールでは、開催予定時期の変更(追加)とともに、市の支援制度の方針が固まる10月に再度合同検討会を開催する案が提起された。また地域振興主査より、組織パターン(試案)に「平田ひとつ」を資料追加することについて説明、休憩を挟みその後、意見交換に入った。)

(休憩)

○ 佐藤(富)委員

新しい委員の方もいるので確認するが、平田でひとつ、または複数個のコミ振を作ろうとすることで良いか。

○ 地域振興課長

10分館を10コミ振にすることは山元地域などで厳しいとの意見があり、また市長もふさわしくないとの意向もあり、本協議会でもこのパターンだけは省いて考えることとしてきた。

○ 佐藤(良)委員

平田ひとつも議論の対象として良いのか。当地域協議会は住民意向の集約、区長・分館長も地域の意見集約を期間限定されているが、どう進めるか課題である。分館を分解することはしないにしても、分館内で期間中に理解を得られないときはどうなるのか。

○ 地域振興課長

協議会委員の方々からはそれぞれの立場で地域の意向をふまえこの場で協議をいただきたい。区長・分館長には合同検討会で必要性ほかご理解いただき地域内での意見集約もお願いしている。地域への状況説明が不足ならば支所からも出向くので連絡いただきたい。スケジュールでは支援策が出る10月にもう一度、全体で合同検討会を行ってはどうかという案である。行政主導で作るものではないので、地域の皆さんの意向が何より重要である。

○ 佐藤（富）委員

ひとつか、複数かで市役所の支援が異なってくることはないのか、それぞれの課題整理がなお必要と考えるが。

○ 地域振興課長

現在検討されている支援制度は、コミ振の事務所となる市の施設管理には市が責任を持つ。つまり施設管理委託料や管理人の負担、大規模維持修繕費など。また、活動費の支援には基礎的経費を負担し、地域の独自性を発揮して行う事業には事業費割の補助をすることが検討されている。

○ 佐藤（富）委員

現在、団体の業務をそれぞれ支所などにおいて職員が行っている状況で、行政の仕事とコミ振の仕事の分別がよく理解できない。また、複数のコミ振を結成した場合、既にひとつになっている団体の業務や、支所として行っている業務などをどうするかも課題である。コミ振に支所機能を一体化させる、行政と一体となって平田ひとつのコミ振が行うという単純な考えも浮かんでくる。行政からコミ振へ移管される事務、またどのような独自の事務を行う必要があるのか整理する必要がある。

○ 地域振興課長

団体の事務局を支所で行っているケースもあるが、協働の観点からも、その団体やコミ振へ移行していく必要がある。特に教育振興室の担当している生涯学習事業等をコミ振に移行することなどが課題となる。支所業務とコミ振業務との関係の整理は、喫緊の課題であり事務局でも整理したい。

また、平田地域として組織が一本化されているものを、コミ振単位に分けることが良いのかどうかも、具体的なくくりや組織の性格を考慮して検討する必要がある。

○ 丸山委員

ひとつにまとまった場合、10の分館の施設処理が問題である。これまで平田地域は中央公民館を中心にして10分館でまとまってきた。区長も分館関係者も2～4つに分かれることの想定が難しいと思う。ひとつとなって10分館を残す方法が良い。

○ 地域振興課長

分館の管理は市の財産管理の観点で先に述べたとおり、市の所有する施設として管理

しているものである。コミ振のくくり方は地域の声を反映していくことが重要である。

○ 齋藤委員

地域では、現分館施設を地元管理にされるのではないかとの不安が大きい。払下げられても維持できるか不安である。緑町、檜橋などは地元管理も可能だろうが、山谷などでは既に自治会集会施設があり、二重の管理費負担となり課題である。

○ 地域振興課長

分館は市の施設として管理している。今後は地元の意向をふまえて対応するのが大前提である。もちろん不要ならば解体するという選択肢もあるだろう。

○ 佐藤（良）委員

緑町では、コミ振が結成されれば自治会集会施設を持っていないため、分館施設を地元で管理することもある程度覚悟する必要があると話してきた。当然、そのための地域負担は増すことになり地域住民が賛成するかどうか、皆を説得できるかどうかが大きな問題である。檜橋、緑町が問題となるであろう。そのことで1つの分館が反対しコミ振が結成できないということは避けたいものだ。地域では、分館施設を市が管理してくれるか、自分たちが使えるかどうかが一番の不安である。

○ 地域振興課長

現時点では、市の施設であり市の負担により管理するとしか言えない。今後は市として地元の意向を尊重し処分や転用も含め検討されていくものと考えている。

○ 石川委員

今の緑町を例にとれば、新たなコミ振への負担にプラスして地元に移管された施設管理費の負担が発生することになる。郡鏡地域では、現在公民館費は年2,000円である。コミ振となったときどの位の負担となるのか。また、今、公民館活動に参加しない人はコミ振活動にも消極的と考えられる。参加しない人にとっては、まさに単なる負担の増では理解を得られない。コミ振の負担額の試算については、それがくくりでも異なるものと思うが、急いで示して欲しい。

○ 地域振興課長

そのとおりであり今後詰めていきたい。また、どういう事業を行うかが大きく関係するものであり、事業の想定をしながら試算をしたい。

○ 藤原委員

追加資料に平田ひとつのメリットとして、住民負担を低く抑えることができると記載されている。どのような算定試算の結果なのか。現在の区費、公民館費の負担より大きくなる地域も少なくなる地域もあるのではないかと。一般の住民にこの資料を示すことは適切ではない。緻密な検討をした上で出していきたい。

○ 地域振興課長

一般的な規模と負担というような観点からの表現である。市民への説明は慎重にすべ

きであり、表現は検討させていただく。

○ 佐藤（達）委員

コミ振拠点に使用しない分館を、新たに市の防災関係施設として位置づけて活用するなどの方法は考えられないのか。

○ 地域振興課長

今後の検討の内容に含まれていくものとする。

○ 西田委員

合併効果に市として諸経費を抑えられることがあるように、市の施設の管理判断の基準として施設に係る費用問題がある。自分たちの地域で必要な施設を市が継続して管理を認めるのか。あるいは必要なら地域で管理して下さいと言われるのか。また地元が必要としても現実に地元負担できるかが課題である。市の施設として管理する条例等の基準が不明なため地元として不安になるのではないかと。基準を明確にすべきである。

○ 地域振興課長

まさに市の方針が明確にならないと示すことができない課題である。今後十分協議して明らかにしていきたい。

○ 今井委員

コミ振発足後、現在の公民館は市が維持管理するものと理解してきた。その際は、使用料を払っても地元として利用したいと考えてきた。しかし施設の払下げもあり得ることによって大変驚いている。地元では莫大な負担が必要となる。

○ 佐藤（富）委員

この件については10分館それぞれ違うと思う。緑町、檜橋ではコミ振結成後も地区の集会施設として活用したいとの考えのようだが、負担の問題では多集落分館地域との違いがある。例えば中野俣には6集落がそれぞれ集会施設を持ち、その上に分館がある。活動として大字単位に残すべきものもあり、払下げの場合、二重の負担になって困るという問題である。これから私達が議論をまとめていくにしても、ある程度枠組みを定め、事業、財政負担、施設管理などを想定してシミュレーションする必要がある。

○ 齋藤委員

要は、コミ振発足後、現分館は支部制にするなど市が負担する施設にして欲しい。住民が必要としても市が地元管理を条件とするならば払下げは受けられないということである。支所からは、住民が求めるならば防災施設などとして活用することが可能なのか確認して欲しい。

○ 石川委員

各地域事情をふまえての意見も出されているが、当協議会としてこれまでの議論を踏まえ、事務局がA（10）、B（2～4）、C（ひとつ）のパターンを示し、Aは消え、B、Cのいずれかを選択する方向で議論を進めてきている。Bにはまだ複数のパターン

があるが、Cとすることが可能なかどうか、本庁の意向も確認して欲しい。誰もがコミ振には不安・不満はあるだろうが、真に酒田市が目指している方向に、当地域も沿った形でより良い組織化の方向を探る必要がある。

○ 富樫会長

委員各位のそれぞれのチャンネルから意見が述べられた。市としての方針が検討中であり、これからの対応も含め地域振興課の考え方はどうか。

○ 地域振興課長

コミ振組織の拠点となる施設管理の費用は支援することで検討中だが、現分館の管理、支部制度などは「くくり」の判断に係る重要課題として、市役所とも協議していく必要を認識している。Cのひとつのケースについても市全体としての考え方も確認したい。なお、BかCを選ぶべきとの意見は当然であるが、財政支援策の見通しを含め検討する意味でも8月に協議会をお願いしたい。

○ 富樫（美）委員

発足の時期は決定しているのか。

○ 地域振興課長

平成21年4月に一斉にスタートしたい方針である。

○ 今井委員

現存の施設を利用したいとなったとき、払下げになるのか。または、市の管理する施設として住民が利用できるのか、そのことを確認したい。

○ 地域振興課長

個々具体的なことについては、地域の意向を踏まえ、今後、市役所とも協議をして結論を出していくことになる。

○ 丸山委員

コミュニティの規模は旧酒田市では2,000人程度、小学校区単位と聞いてきた。しかし地域の特殊性などもある。山元地域からは先の合同検討会で、分館を処分されても地元管理は不可能であると山元分館長が切実な意見を訴えていた。単に集会施設として必要か否か、財政や予算効果だけではなく、中山間地域の高齢化などこういった地域の切実な事情をも踏まえ分館施設の管理のあり方を検討して欲しい。

○ 齋藤委員

コミ振の問題は20年後を見通すというより、まず10年程度を見通し、その後は次の世代に委ねることも必要ではないか。なぜなら旧酒田市で50年かけてようやく市街地と公民館地区が同じ制度となろうとしているのに、当地域ではそれを5年でやろうとしていることに無理がある。また、市に合わせていくことが平田地域の絆の解体になる側面もある。その中で最大の問題は人件費の負担である。すべてをボランティアで賄えるとは考えられない。

平田の良さを残しつつ酒田市の中に入っていく方法として、時間をかけて議論し平田ひとつの組織になるという方法があると考えている。

○ 富樫会長

意見が色々出されたが、平田地域での組織化については平成19年2月15日の協議会でパターンBとCを議論することで確認し進んできた。新しい委員にも概ね理解いただけたものと思う。これから、団体や地域において議論を進める上でも、提出の協議会スケジュールはこの場で確認し委員の了解を受けたいが、いかがか。

○ 佐藤（富）委員

確認だが、協議会としてのコミ振くくりの取りまとめ、決定の時期はいつか。

○ 地域振興課長

本年12月が目標である。その後、さらに具体的な調整を進めたい。

○ 富樫会長

では検討スケジュール案は全員賛成でよろしいか。（一同異議なしの声）

(2) その他 (なし)

7. その他

(若干の事務連絡等)

○ 富樫会長

本日の協議では、コミ振の検討については一つひとつ進めていく必要があるとあらためて感じた。持ち帰っての検討ではあいまいになる恐れもあり、今後皆さんと一緒にこの協議会でなお一層努力して行きたい。今後ともよろしく願いたい。

8. 閉 会

○ 菅原副会長

3名の欠席があったが限られた時間内で活発に意見を出していただき感謝申し上げます。本日の内容をまた次につなげて行きたい。次回、8月にまた意見を持ち寄っていただくようお願いする。

(16:30閉会)

(注) コミュニティ振興組織=コミ振 として文中使用

会議録署名委員